

(4) 町田市



東京の端にある

“まちだ”ってこんなまち

ABOUT MACHIDA CITY

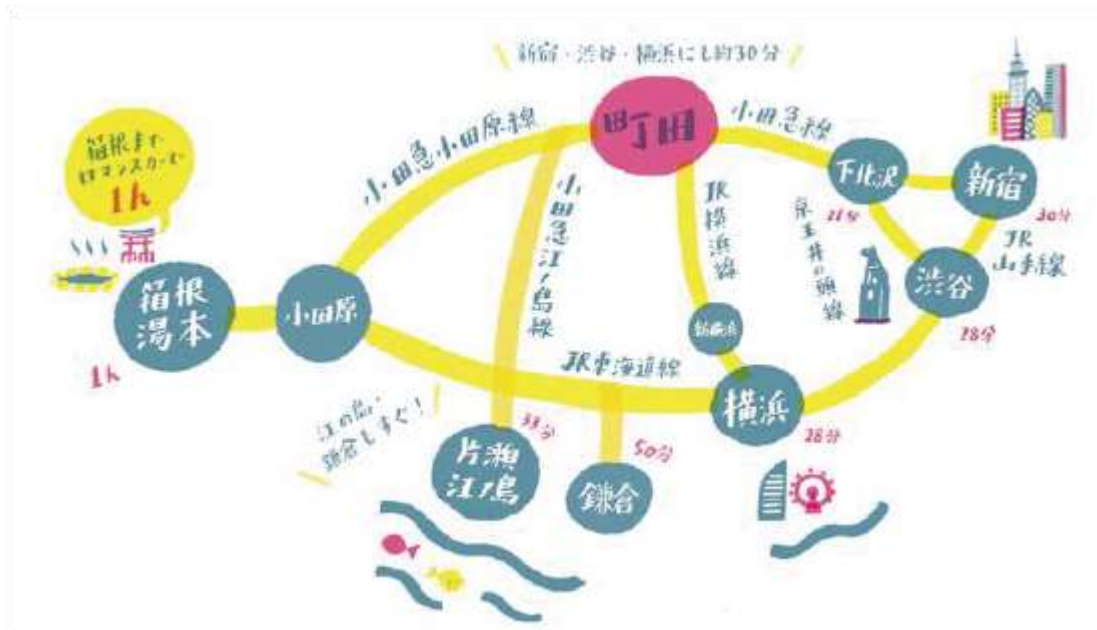
■ 地図で見ると東京の南端に出っ張っているのが町田

東京都から半島状に飛びだして、神奈川県にぐるりと囲まれているという特殊な立地の町田市。“町田って神奈川県だっけ？”と勘違いされることも多く、市民の間ではあるあるネタとしてもよく知られています。市内に大学や専門学校なども多く、学生さんが多い街でもあります。



■ 都心、横浜から電車で30分

町田市の中心にある町田駅は、小田急線の快速急行を使えば、新宿、渋谷方面には約30分、JR横浜線で横浜も約30分。気軽に都心へアクセスできるのがよいところ。湘南方面には1時間もあればさくっと到着。海にも山にも、都会にも行きやすいのです。



■ 町田駅の周辺は若い人の率が高い！

市内に住所のある大学は9つ、専門学校も8つほど！進学がきっかけで町田にくる人もいるので、学生世代の若者人口が多いのも町田の特徴です。市外から通う人も多く、お店やカフェは若い人でにぎわっています！

■ 町田駅って新宿駅の次に乗降人員が多いんだって！

2019年のデータによると、小田急線町田駅の1日の平均乗降人員は約29万人。新宿の約52万人に次ぐ2位が町田駅っていうから驚き。しかもJR横浜線では、町田駅が1位なんです。

KEEP ON LOVING, MACHIDA CITY

町 田
薬師池公園
四季彩の杜



まちだで
好きを
続ける



南 町 田
グランベリー
パーク



まちだで
好きを続ける



町田薬師池公園
四季彩の杜



南町田
グランベリーパーク

●企業へのサポート

町田市は東京都南西部、八王子市の南、神奈川県川崎市・横浜市の西、相模原市の東に位置しており、小田急線、JR横浜線、東名高速道路、国道16号・246号線や鎌倉街道などにより東西南北の交通アクセスが良いことから、多摩地域の中心として商業を中心に発展し、現在でも市外から多くの人々が訪れる都市となっています。

一方で、市内北部の丘陵地域には里山や田園風景が残り、鶴見川の源流を有するみどり豊かな自然が息づく、首都圏の貴重な資産を有しています。また、市内全域には住宅地が広がり、地域子育て相談センターやマイ保育園制度などの子育てに対する支援も充実しています。ここ数年、0～14歳の転入超過数は全国トップ10に入り続けています。

これらの「職住近接」を実現可能な立地環境は、市内産業にとって多様な機会と可能性を与えており、町田市ではその利点を活かして企業や従業員にとって魅力的なまちづくりをすすめています。

市内に立地する企業には各種奨励制度も設けています。事業を実施するなら、ぜひ町田市で！

・町田市企業等立地奨励事業



(5) 日野市



■ 市の概要 ～東京でありながら、なんとなくホッとするまち～

東京都のほぼ中心部に位置し、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもっています。

人口は微増傾向が続いており、令和12年(2030年)をピークに減少に転じる見込みですが、令和42年(2060年)には平成27年(2015年)と比較して約99%と現在と同水準の人口が維持できると見込まれています。

「新選組のふるさと」でもある日野市は、副長・土方歳三や六番隊隊長・井上源三郎が生まれ育ったほか、彼らの活動を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷(日野宿本陣)が残っています。

■ 交通 ～人口当たりの駅数トップクラス～

JR中央線、京王線、多摩モノレールで延べ12駅(10拠点)を有し、新宿までは中央線又は京王線で約30分。

また、国道20号、甲州街道、川崎街道が通り、電車でも車でも好アクセスであり、通勤・通学も便利です。



■ 企業支援 ～次世代のイノベーションを創造するまち～

日野市は「工業のまち」として発展してきた歴史を持ち、東京都でも有数の製造品出荷額を誇るとともに、高い技術力を持つ企業が多数立地し、イノベーションの拠点として多摩平の森産業連携センター「PlanT」を設置しています。市内に工場や事業所等の新設・拡張した場合に固定資産税・都市計画税相当額をキャッシュバックする制度(奨励金)などにより、企業立地・企業誘致を進めています。

また、中小企業向けの支援制度として、「事業拡大支援事業補助金」、「販路開拓支援事業補助金」、「魅力ある個店づくり支援事業補助金」、「中小企業事業資金融資あっせん制度」など、多くの支援メニューを用意しています。

■ 企業立地支援制度



■ PlanT



■ 融資・補助金



■ 住環境・子育て環境 ～子育ての未来は、多摩川の先に。～

日野市は好アクセスかつ広い住まいを検討しやすいエリアとして、子育て世帯に注目を集めている街のひとつです。これからの子育てに必要な自然、社会体験の機会、ICTや子どもたちが主体的に学ぶ授業など、子どもたちがより良い人生を歩むための環境が整っています。また、すべての公立小学校が自校調理方式の給食となっており、日野産農産物を積極的に活用しています。農業体験として農家の方と児童が「顔を合わす関係」をつくることで、食育だけでなく、生き物や生産者への感謝の気持ちも育める機会を設けている点も日野市ならではの。

また、JR中央線日野駅、豊田駅、京王線・多摩モノレール高幡不動駅の3駅周辺に商業拠点があり、市内に均等に存在しているため、日常の買い物、飲食店利用も楽々です。



育つを育てる街



■ 観光 ～誠の心が息吹くまち～

幕末、土方歳三ら、後に新選組の隊士となる面々が集った日野。都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物「日野宿本陣」や、古くから関東三大不動の一つに挙げられる高幡不動尊、多摩動物公園など、多くの見どころがあります。



■ 日野市シティセールスサイト



■ 日野市観光協会



(6) 狛江市



こまえてって？



空から見た狛江市

都心に近い コンパクトシティ



狛江駅前

■コンパクトで住みよいまち

市の面積は6.39km²で、全国で2番目に小さな市です。

地形はほとんど平坦で、徒歩や自転車での移動がしやすいまちです。

日照、通風、採光、排水などの面で健康的な居住環境にあり、ベッドタウンとして発展し、多くの地区が閑静な住宅地です。

■人口は8万3千人 令和3年1月現在

近年は大型マンションの建設などの影響から、10年前と比較して約5,000人の人口増、人口密度は多摩26市の中で2番目に高くなっています。

資料：多摩地域データブック2019年版

■東京都心に近接

新宿から南へ約14kmに位置し、電車で約20分でアクセスできます。

東は世田谷区、西及び北は調布市、南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に接しています。

小田急線により上り方面は代々木上原駅へ簡単にアクセスでき、下り方面に向かえば、箱根や江の島、丹沢などの海や山の観光地に行くこともできます。

■水と緑のまちなみ

多摩川のほとりでは、四季折々の自然豊かな光景が広がり、ジョギングコース、サイクリングコースとして広く親しまれています。都心の近くに位置しながら、水と緑の安らぎのあるまちです。

▶Komae's Data

▶市内の緑が豊かだと感じている市民の割合
83.9%

▶子育て世帯の割合
15.1%



赤ちゃん広場の様子

▶昼夜間人口比率
73.80%

▶緑被率
24.32%

野川



狛江駅

▶狛江駅一日平均乗降客数
49,000人

資料：小田急電鉄(株)交通企画部

企業・創業者へのサポート

市ではさまざまな創業支援、企業への支援を行っています。詳しくは市ホームページを御確認ください。

■創業支援

- ・創業セミナー
- ・創業スクール



・シェアキッチン^①の利用料等の優遇
高架下商業施設に開業した、トライアルシェアキッチン「FORT MARKET 和泉多摩川」(株式会社なかむら商会による)では、創業スクールの修了者などに対し、初月利用料等の優遇を行っています。

■事業資金・経営相談等

- ・狛江市小口事業資金融資あっ旋制度
- ・小規模企業事業資金融資あっ旋制度
- ・狛江市商工会による中小企業の経営相談等



FORT MARKET

文化・芸術振興

■絵手紙のまち

市内では絵手紙愛好家が多く活動し、絵手紙が駅構内や商店、市内を走るバスなど、市内各所に飾られ、狛江のまちを彩っています。



街中の絵手紙

■音楽の街—狛江

狛江駅前での野外ライブや、市役所でのコンサートを行い、プロのアーティストや公募アーティストの演奏など、誰でも気軽に音楽に参加できる環境づくりを推進しています。



野外ライブ

魅力・地域資源

■狛江逸品

市内の元気で頑張るお店を支援するため、「わくわく元気！狛江逸品コンテスト」を開催してきました。これまでに、スイーツ、ラーメン、ランチなどのテーマで開催し、珠玉の逸品が選ばれています。



ブランド農産物

■狛江ブランド農産物

GAP(農業生産工程管理)手法の導入により、安心・安全でおいしいことが特徴です。平成26年6月15日から「狛江ブランド野菜」として出荷を始め、都内初のGAPへの取組み「狛江ブランド野菜」で、フード・アクション・ニッポンアワード2015食文化・普及啓発部門に入賞しました。平成30年4月1日からは、新たに「狛江ブランド農産物」として名称が変更されました。



市内の畑

(7) 多摩市



■ 市の概要(人・企業にとって魅力となる都市ブランド)

多摩市は、多摩丘陵地帯の北端部にあり、北の多摩川と南の多摩丘陵稜線に挟まれ、中央を多摩川支流の大栗川とその支流の乞田川が流れる起伏に富んだ一帯です。標高は多摩川沿いで約50m、天王森公園付近が約160m。東経139度27分、北緯35度38分に位置し、北は多摩川を境に府中市、東は稲城市、南は神奈川県川崎市と町田市、西は八王子市と日野市に接しています。令和2年12月で面積は21.01km²、となっています。

■ 沿革

明治22年4月1日の市町村制の施行とともに、旧8カ村と2つの飛び地が合併して多摩村が誕生し、昭和46年の市制施行により、多摩市になりました。この「多摩」という語の語源については諸説ありますが、多摩川の上流の峠で山梨県丹波山地方から起こったという説が最も有力です。上流の川の名である丹波(たば)川が生まれ、この川の名によって地域である郡名の多摩郡も称号するようになったといわれています。

● 企業へのサポート

■多摩市では、近隣他市と比べ、先駆的に創業支援を開始し、フロントランナーとして多摩地域の創業支援を牽引してきました。「創業・経営相談」や「志創業塾」を実施するほか、創業後の成長を支援する「経営塾」や相談員が事業所を訪問し、課題をお聞きする「市内事業所訪問」など、新たな支援メニューを用意し、創業者や市内事業者の皆さまの支援を行っています。詳細は、市ホームページ (<http://www.city.tama.lg.jp/>) から御確認ください。

・ 創業・経営相談



・ 志創業塾



・ ビジネス支援施設認定制度



・ ビジネス支援施設創業者利用料補助金



・ 産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画と優遇措置



・ 創業・経営支援関係機関



■多摩市は、ゆるやかな丘陵地を中心に、水と緑の豊かな自然に恵まれた、多摩ニュータウンの中心都市です。首都圏のベッドタウンとしてニュータウン開発がはじまって以来、快適で便利な住宅都市建設が、計画的に進められてきました。

現在では、単なる住宅都市としてだけではなく、業務・商業・文化・情報・交通などのさまざまな機能を備えた都市となっています。

そこで、このまちづくりをよりいっそう進めるために、多摩市では進出される企業に対し、1億円(本社の場合には1億2千万円)を上限として固定資産税・都市計画税の8割相当額(本社の場合には10割相当額)及び市内に住所を有する常用雇用者数の増加により算出した額を奨励金として最大5年間交付する優遇策を設け、引き続き企業の立地を支援しています。

ただし、奨励金を受けるには、面積要件や常用雇用者数などいくつかの要件があります。詳しくは以下の企業誘致制度のご紹介からご覧ください。

・ 企業誘致奨励のご紹介～多摩市への立地をお考えの皆さま～



■ インフラの特色

多摩市は、東京都のほぼ中央に位置し、多摩ニュータウンで知られる日本最大規模のニュータウンを中心とした、多摩丘陵の強固な地盤に、高水準な都市基盤と、自然と調和したゆとりある住環境が計画的に整備された街です。京王線・小田急線の2路線で都心にダイレクトアクセス、多摩モノレールで中央線方面へと、多彩な鉄道ネットワークにより、通勤・レジャーなどのお出かけも快適・便利です。道路も広々、高速道路へもスマートアクセスが可能です。

■ 交通

市内には京王線、小田急線、多摩都市モノレールが乗り入れ、東西南北ともにアクセスは軽快です。新宿駅から聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、多摩センター駅へは約30分で到着でき、通勤、通学の利便性が高いです。

一方、道路交通では、首都圏の大動脈である「国道16号」にも近く、中央、東名高速道路各インターチェンジの利用が可能です。

以上のとおり、本市は交通利便性に恵まれた立地特性を有しています。

■ 日本一長い遊歩道・多摩よこやまの道

多摩ニュータウンの街に網の目のように張り巡らされた遊歩道は全長約41kmにおよびます。特色ある公園や遊歩道と遊歩道を結ぶおもしろい名前の橋、眺望ポイントや文化財、団地の移り変わりなど、見所スポット・立ち寄りスポットが満載です。

万葉集に「多摩の横山」と詠まれた多摩丘陵の尾根部に位置し、全長は約10kmにおよびます。平成27年には、新日本歩く紀行100選「歴史の道」にも認定されました。道の途中には、多摩市域を一望でき、天気が良ければ富士山まで望める「防人(さきもり)見返りの峠」や多摩ニュータウンの街並みを見渡せる

「展望広場」などの展望ポイントのほか、随所に四季折々の自然を楽しむことができる自然観察ポイント、史跡や伝説などの歴史ポイントなどがある見所満載の散策コースです。



■ その他の特色ある地域資源

高度な都市基盤の整備

多摩センターを中心としたエリアは計画的な街づくりが進められています。

地盤が安定しているうえに、鉄道、都市モノレールの建設、広幅員の道路や歩行者専用道路の整備、下水道や公園緑地の整備など、都市基盤が十分に整備され、高度な街づくりが進んでいます。

また、多摩センター地区は、無電柱化、景観に配慮した街づくり等、多摩ニュータウンの中心地区として整備が行われています。

災害への強み

多摩市内のニュータウン地域は多摩丘陵のほぼ中央に位置し、海岸や河川から離れており、津波や洪水といった降水被害や沿岸部一帯が抱えている液状化の心配がなく、自然災害に強い街といえます。東京都における「地震に関する地域危険度測定調査」においては、多摩市内のどの地域においても危険度が低くなっております。

・ 地震に関する地域危険度測定調査

